

青パパイヤ露地早熟栽培（マルチ）マニュアル

令和8年4月15日

埼玉県農業技術研究センター

1. はじめに

青パパイヤは新規作物として注目され、埼玉県内でも栽培が増えつつあります。その様な中、収穫期間が短いことや肥料価格の高騰による施肥コストの増加などが課題となっています。このマニュアルでは収穫時期の前進化による収穫期間の長期化と効率的な施肥方法について紹介します。

2. 青パパイヤとは

青パパイヤとは、熱帯果樹として知られるパパイヤ（*C. papaya* L.）の未熟果を指します。本州の気候条件では完熟果の生産が困難なため、青パパイヤを野菜として生産しています。

タンパク質分解酵素である「パパイン」をはじめ、栄養素を豊富に含むことから注目されています。また、他作物と比べて栽培にかかる手間が少ないといった利点もあります。



写真1. 青パパイヤ果実断面

3. 生育の特徴

パパイヤの樹は本葉 30 枚前後に達すると葉腋に第1花が着生します（写真2）。その後、展開葉ごとに花が着生し、果実となります（写真3）。生育適温は25～30℃であり、35℃以上若しくは15℃以下では生育が抑制されます。

現在流通しているパパイヤの品種は両性株と雌株の性型を持ち、花や果実の形状から見分けることができますが、苗の段階で判断はできません。雌株の花には雄しべが無く、雌しべの柱頭が大きく裂開しています（写



写真2. 第1花着生



写真3. 結実の様子



写真4. 花



写真5. 果実

(3) 畑の準備

① 施肥

適正 pH は 5.5～6.7 です。基肥は高度化成肥料（14-14-14）を 1 株当たり 150g 全面散布しましょう。

表 2. 施肥例

施肥時期	肥料銘柄	施用量		成分(N-P-K)	
		10a当たり (kg/10a)	1株当たり (g/株)	10a当たり (kg/10a)	1株当たり (g/株)
基肥	高度化成14号	20	150	2.8-2.8-2.8	21-21-21
追肥(1回目)	普通化成8号	40	300	3.2-3.2-3.2	24-24-24
追肥(2回目)		40	300	3.2-3.2-3.2	24-24-24

※株間2.5m、条間3m(133株/10a)とする

② マルチ

黒マルチによって地表面を被覆すると夜間の地温低下を防ぎ、初期生育が促進されます。無マルチ栽培よりも開花始と収穫始が2週間程度早まり、多収となります(表3、図1)。地温を確保するため、植付け1週間前にマルチ(幅135cm)を張ります。

表 3. 開花始と収穫始 (2025年・雌株)

マルチ有無	開花始	収穫始
黒マルチ	7/8～7/10	8/20
慣行(無マルチ)	7/22～7/28	9/9

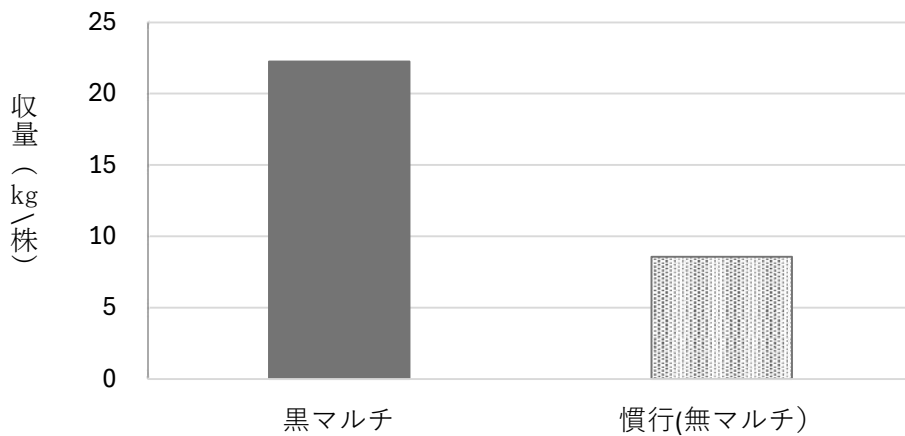


図 1. 黒マルチの有無による株当たり収量 (2025年・雌株)

(4) 植付け

① 苗の準備

購入苗を使用します。近隣の種苗店やホームセンター、地域によってはJAで取り扱っています。購入してから定植まで期間が空く場合は日の当たる室内で管理し、乾燥しないよう適宜灌水をします。

② 時期

4月下旬～5月上旬が適期です。植付時期が早いと低温によって生育が遅れ、夏季以降の生育も緩慢となるため、注意が必要です。

③ 栽植密度

生長期間中、樹幅は約1.5mとなるため、畝間3m、株間2.5m(10a当たり133株)以上とします。

④ 風よけ

定植直後は強風と遅霜対策のため、肥料袋等を使用して風よけをすると効果的です(写真6)。ただし、高温時は葉焼けの危険性があるため、天候を見ながら適宜換気をするとともに、葉が風よけ資材と接触する前(5月中旬～6月上旬頃)に撤去します。トンネル被覆も可能ですが、茎葉がビニルに接触すると葉焼けやひどい場合には生長点が萎れてしまうおそれがあるため推奨しません。



写真6. 風よけ資材の設置

(5) 管理作業のポイント

① マルチ除去

6月に入ると、茎の肥大が急速に進むため、マルチが株元に接触し、高温による影響と併せて、生育の停滞や倒伏の発生を助長します。ダメージが大きい場合、株元が腐敗し、枯死する原因となります(写真7、8)。そのため、6月以降は株元がマルチと接触しないよう適宜マルチの穴を広げ、6月下旬～7月上旬に実施する1回目の追肥時に合わせてマルチを除去しましょう。



写真7. マルチの接触による倒伏



写真8. 被害部位

② 追肥

1回目は6月下旬～7月上旬、2回目は8月上旬～下旬に化成肥料(N:P:K=8:8:8)を1株当たり300g施用します。施用方法は側条施肥とし、畝両側の樹幅直下に肥料を散布することで、慣行の全面施肥より施肥量を約4割削減できます(図2)。

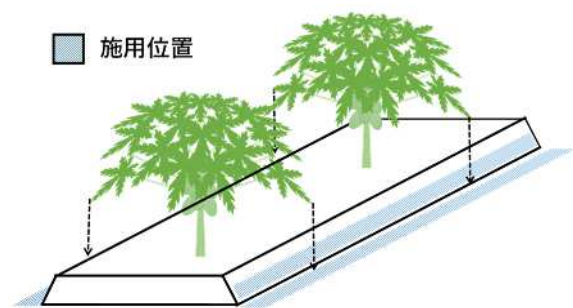


図2. 側条施肥

(6) 収穫

果実重が500g程度になったらハサミで果柄を切り取るか手で果実を軽くひねって収穫します。収穫時に果実表面や果柄部から溢出する樹液が皮膚に付着すると炎症を起こすおそれがあるため、収穫作業時は手袋を着用しましょう。

収穫せずに残した果実は肥大し続けるため、1kg程度に達してから収穫することも可能です。300g以下の果実は青臭く、苦みが強いため若採りは推奨しません。販売先の規格や購入者のニーズに応じて、収穫する果実の大きさを決めましょう。

(7) ほ場の片付け

11月下旬になると低温によって果実の肥大が停止し、収穫を終えます。片付けはこのこぎりで株を根元から切り倒し、ハンマーなどで細かく砕いてそのまま畑にすき込みます。また、収穫後の株は冬季の低温により枯死するため、片付けをしなくても同じほ場に4月からパパイヤを作付けすることは可能です。しかし、同一ほ場で複数年栽培すると、連作障害による生育の遅延や土壌病害の発生につながります。そのため、長期間の連作は控え、可能であ

れば毎年栽培ほ場を変えることが望ましいです。

5. 栽培上の注意点

(1) ほ場の排水対策

パパイヤは湿害に弱いため、水田転換畑や排水性の悪いほ場で栽培する場合は、明きよや暗きよを設置し、高うね栽培にするなど排水対策を行いましょう。

(2) 病虫害防除

病気は軟腐病、うどんこ病、炭疽病等が発生することがあります。対策として排水性と日当たりの良好なほ場を選ぶことが重要です。害虫はアブラムシ類やハスモンヨトウ等が発生します。薬剤防除が効果的ですが、パパイヤの登録農薬が少ないため、使用回数などに注意しましょう。

主要な病虫害を以下に示します。

① パパイヤモザイク病 (アブラムシ媒介)

アブラムシ類がパパイヤ奇形葉モザイクウイルス (PRMV) を媒介します。罹病すると葉や果実にモザイク状の模様が生じ、生育や収量が著しく劣るため、発生初期から薬剤防除を行います。また、苗購入の際には健全な苗を選ぶよう注意が必要です。



写真 9. モザイク病罹病株

② ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ

6月以降に発生し始め、パパイヤの葉、茎を食害します。9月以降になると老齢幼虫が果実も食害し、果実品質低下の原因にもなります。登録農薬が少ないため、発生初期からの捕殺やBT剤等を用いた防除が効果的です。



写真 10. ハスモンヨトウ(幼虫)



写真 11. ハスモンヨトウによる食害を受けた果実

6. 青パパイヤの利用、販売

(1) 利用

青パパイヤは食感がシャキシャキとして淡白な味が特徴です。サラダや炒め物、スイーツなど様々な料理に利用できます。調理方法は[埼玉県ホームページ](#)に事例が掲載されています(図3)。そのまま食べると苦みがあるため、刻んだり、スライスした後、水に10分程度さらしてから調理しましょう。調理の際、青パパイヤの果汁に触れると皮膚が赤くなることがあります。肌の弱い方は手袋をして直接触れないように注意しましょう。

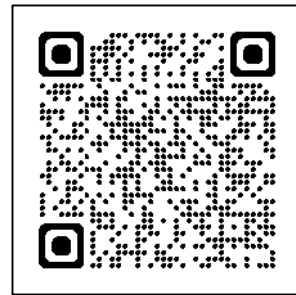


図3. 埼玉県ホームページ
(青パパイヤレシピ例)

(2) 販売先

直売所での販売やJAを通じた市場出荷が行われています。

<参考資料>

- ・Aces And Eights. 2020. 青パパイヤ栽培方法. Ace And Eights.
<https://www.ace8.net/>
- ・石畑清武. 2000. パパイア 栽培技術の基礎. 果樹園芸大百科 17. 133-136.
- ・亀川藍, 宮城聡子. 2011. ピシウム属菌が関与するパパイヤ連作障害とその対策. 植物防疫 第65巻 第2号. 113-116

<免責事項>

本マニュアルに掲載されている情報を利用したことによって発生した損害に

対し、埼玉県は一切の責任を負いません。

<マニュアルに関する問い合わせ先>

埼玉県農業技術研究センター 高収益畑作担当 (TEL 048-536-0442)